

## 「異文化交流体験」を前に

10年生になった4月は、クラスにとってまた新しい春になりました。復学のクラスメイトを含め4人の新メンバーが仲間に加わり、フレッシュな風がヒューヒュー吹いて、それに刺激されてさらに風が次々巻き起こり…。クラスの中にバンドやクラシックデュオや漫オコンビが次々と結成されています。現在は、今年から6月に行われることになった「APU（立命館アジア太平洋大学）異文化交流体験」に向けて、ノリノリで英語での会話やプレゼンテーションの準備に取り組んでいます。

一方、文学のエポックでの「日本語論争」では、ボク、オレ、ジブン、ワタクシなど一人称代名詞を場面によって使い分ける日本語について、たくさんの擁護論がでました。“日本語は相手を思いやる言葉だ”“自分の側を変えて、人との関係を大切に”“一人称代名詞を使い分けることとは関係なく、自分たちの自己は内側にきちんと作られていく”“一人称代名詞が一つしかない言語より、自分の内側をより表現しているのではないか”などなど。また、日本語における漢字の重要性を語ってくれる場面もあり、日本語に関する討論会では、日本語擁護派に熱のこもった勢いがありました。「日本語」について、また「日本の心」について改めて考えてみた3週間を経て、6月3日、アジアの人々に出会いに大分県へ出発します。

10年生担任 内海真理子